

チム九

印刷を支え加工を活かす

断裁部門 牧山 百花

福岡の工業高校での就職活動中、牧山百花さんが希望していたのは製本に関わる仕事。その情報を探る中で一番魅力を感じたのが旭紙工株式会社でした。今回は2023年4月に社会人生活の第一歩を踏み出してから現在までの成長の軌跡を追います。



入社の際、先輩から「おはようございます」と声をかけてくれ、「良い会社だな。ここが良いな」と思いました。入社すると、皆さん明るくて、活気があって毎日が本当に楽しい！「楽しいよ！」といつも口にしていて、両親も安心しています。

夏休みの会社見学で社内の雰囲気や良さを、社員の皆さんの人柄の良さに魅力を感じ入社を決めました。総務の皆さんをはじめ誰もが本当に優しく、あたたかく、目を合わせて一人ひとり「おはようございます」と声をかけてくれ「良い会社だな。ここが良いな」と思いました。入社すると、皆さん明るくて、活気があって毎日が本当に楽しい！「楽しいよ！」といつも口にしていて、両親も安心しています。

現在の業務内容を教えてください。

断裁部門で街中の大きいポスターや洋服のタグなど、大小さまざまなサイズの用紙を機械でカットしたり、穴を開けたり、四隅を丸く加工したりしています。業務で当初大変だったのが力仕事。男性にはできて自分にはできないのがとても悔しく、手伝ってもらってばかりで

やりがいです。この気持ちで大切に、これからも業務に邁進します！

入社翌年に早くも班長に任命されるほど、大きな期待を寄せられている牧山さん。常に前向きな姿勢で業務に取り組む姿は、一緒に働くメンバーにも良い刺激になっているはずで、これからの活躍ぶり、成長ぶりに注目していきましよう！



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17.6億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2023年12月実績



忘れられない失敗があります。それは「タイトルシートのラベルの貼り間違い」。ダブルチェックを怠っていたことが原因でした。入社時に初めて手がけた仕事で、なおかつ、好きな仕事で思い入れがあった上、営業の皆さんが長期にわたって単価交渉に尽力していたことを知っていたため、非常に落ち込みました。それから、営業の皆さんが仕事を継

申し訳なく思いました。そこで、力仕事以外で成長しなければと、さまざまな機械操作を頑張つて習得しています。

これまでの業務で印象に残る出来事がありますか？

続けるよう全力を尽くしてくださったことを忘れず、同じミスを絶対に起こさないよう、ダブルチェックを欠かさず行っています。

仕事で大切にしている motto を教えてください。

1つは「コミュニケーションを大切に」。会話が少なくミスも出やすいと思うからです。2024年1月から導入された班長制度で班長に任命されたこともあり、メンバー全員にこまめに声をかけて、わからないことを聞きやすい雰囲気づくりに努めています。日本語の不得手なタイ人メンバーには、スマートフォンでの翻訳機能やひらがなでの筆記も活用して、うまく伝えるための工夫もしています。班長に任命された当初は「リーダーシップもないし、言葉で伝えるのも下手だから不安だな」と思っていました。任せられたことからには精一杯頑張ろうと、幹部の方からアドバイスをもらいながら頑張っています。もう1つの motto は「不明点、

最後に、今後の目標を教えてください。

連絡と報告を怠らないこと、機械の知識を深めること、問題解決力を養うことで、皆さんに頼られる存在になるのが目標です。

先日、地元に戻った際、たまたま自分が携わった服のタグを発見。とても嬉しくなって、すぐさま母に「これ、私が作ったよ！」と自慢したら「すごいじゃない！」と母も大喜び。目に見える仕事、人の役に立つ仕事に携われていることを嬉しく思った瞬間でした。また、今まで不具合があるたび、人を呼ぶために手を止めていた機械を、今では自分でセッティングできるようになり、不具合時も作業を止める必要がなくなりました。こうして自分ができることが少しずつ増えているのも大きな

ビジョンとパッション

第5弾

未来のために取り組むべき課題、そしてより働きやすい職場環境づくりを考えているという加藤工場長。
タイからの研修生や工場のメンバーとのコミュニケーションを大切にしている理由は、
先輩とのエピソードにありました。



工場本部 本社工場
工場長
かとう ひで き
加藤 秀樹 さん

旭紙工の強み

24 時間体制での稼働と 協力し合うチームワーク

印刷物や加工物の大量生産ができるように、24 時間体制で工場が稼働しています。製本作業もほぼ社内
で対応可能です。また、和綴じの御朱印帳や袋への
包装、セット商品の詰め込みなど、手作業で対応し
ている部分もあります。

現在、タイからの研修生が 57 名在籍しています。み
んな明るく元気があり、工場が活気に満ちあふれて
いるのは、彼らのおかげかもしれません。定期的に
バーベキューをしたり、ボウリング大会をしたり、
と仕事以外のことでも交流を深めています。このよ
うな活動が信頼関係の構築にもつながっているの
でしょう。互いに助け合い、協力できるチームワーク
が強みです。

今後長期的に成し遂げたいこと

負担と不良品を 減らす施策を

工場のメンバーが負担を感じることなく、利益
を出せる体制を整えていきたいと考えていま
す。そのためには、まず不良品を出さないよ
うにしなければなりません。機械の不具合の調整
やルールの見直しなどもその1つでしょう。

工場長としての信念

言葉や文化、 価値観の違いを超えて 信頼関係を築く

楽しく気持ちよく仕事ができる職場を目指して
います。誰もいつかは退職する日が来るで
しょう。そのときに「この工場で働けてよかつ
た」と思える環境を整えていくことが、私の役割
だと思っています。良好な人間関係は働きやす
い職場には不可欠です。だからこそ大切にしてい
るのは、相手と目線を合わせて会話すること。
タイの研修生とは、文化や価値観の違いが存在
します。十数年前に初めて研修生が来たとき
には、その違いに苦労しました。7月から10月は出
家のためにお酒を飲まない、頭を撫でてはいけ
ない、首の後ろで腕を組んではいけない、など私
たち日本人には馴染みのない習慣ばかり。今で
こそ、出家という概念はほとんどないよう
ですが、当時は初めて知ることばかりで困惑しま
した。とはいえ、生まれ育った環境の違いはあ
っても同じ人間です。言葉の壁だけではなく、国
の違いも超えて仲間になれるように、コミュニ
ケーションを大切にしています。

仕事をする上で大切にしている考え方

心に残る先輩からの 一言が原点

以前も話しましたが、前職から一緒に当社へ転
職した先輩がいました。よく食事に誘ってくだ
さり、いつも会計は先輩持ち。あるとき、「お礼を
したいので、次は私が奢ります」と伝えると、「こ
れから先、後輩ができたときに同じようにして
あげることが礼だよ」と言われました。今でもそ
の言葉を胸に、工場のメンバーと良い関係性が
築けるように努めています。

